

第5回 観光審議会資料

所 管 部：那覇市役所経済観光部観光課
開催日時：2024年1月31日（水）
（受託企業：有限責任監査法人トーマツ）

目次

前回審議会での指摘事項について	p3
基礎調査報告書の追加報告	資料02
第 2 次那覇市観光基本計画策定の取組の柱・基本施策について	資料03

前回観光審議会での指摘事項について

審議会（11/28）で指摘された事項に対して、以下の対応方針で進めております

指摘事項：基礎調査に関する事項

#	意見	検討方針（案）	質問者
1	グラフはカラーユニバーサルデザインの視点等も加味したうえで見やすさに配慮してほしい	➤ 次年度以降、基礎調査結果を一般公開する際には、グラフの色合いや文字の見やすさにも配慮する想定である	親川委員
2	コロナからの回復期にあたり観光の現場はかなりのスピードで変化していくため、アンケート結果の内容を踏まえた対応もスピードを持って行ってほしい	➤ 次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する	石坂委員
3	体験コンテンツに関する質問項目の設定が大まかなため、具体的に那覇市が何の体験コンテンツに注力すべきかわからないのではないかと	➤ 次年度以降、具体的な施策を検討する際に、必要に応じて別途体験コンテンツに特化したアンケート等を行うことも考えられる	名嘉元委員
4	路線バスおよび観光バスが不便である理由を特定してほしい	➤ 追加でクロス分析を行い、報告する	慶田委員

審議会（11/28）で指摘された事項に対して、以下の対応方針で進めております

指摘事項：骨子案に関する事項

#	カテゴリ	意見	検討方針（案）	骨子案の 関連か所	質問者
1	計画期間	目標値と現状が大きく乖離した際に、計画を見直せる形になっていることが重要である	➤ 計画の評価・見直しの体制等を考慮した結果、10年計画、5年目中間見直しとして計画期間を定める方向性で検討している ➤ また、毎年度進捗管理・評価を行い、適切にPDCAサイクルを回していく想定である	p.6	石坂委員
2	那覇市の将来像	オーバーツーリズムへ対応していくことが分かる内容であるとよい	➤ 将来像の「考え方」にて、「那覇市民の生活と観光振興の調和を図るとともに、観光振興が那覇市内の産業の活性化につながるよう取り組む（例えば、混雑やマナー違反といったオーバーツーリズム問題に取り組む等）」との説明文を追記する	p.31	石坂委員 比嘉会長
3	施策体系	2034年に国民スポーツ大会が沖縄で開催される想定であるため、それに向けた準備も計画に記載するのがよい	➤ 次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する	-	親川委員
4	施策体系 「取組の柱1」	都市インフラの整備も重要と考えているため、取組の柱に文言として含めるとよい	➤ 都市インフラの整備は受入体制整備の一部と認識しており、取組の柱1に含まれると考えているため、説明文にて「都市インフラの整備」の文言を追記する	p.32	名嘉元委員
5	施策体系 「取組の柱1」	「レンタカーに依存しない円滑な移動・周遊の促進」は、レンタカーがあたかも悪いような印象を受けるため、バス、タクシー、レンタカーを含め様々な交通手段で移動してもらうような書きぶりにしてほしい	➤ 「バス、タクシー、レンタカーを含めた様々な交通手段の連携・利便性向上による円滑な移動・周遊の促進」と、多様な交通手段で移動・周遊いただくよう記載を更新する	p.33	伊志嶺委員
6	施策体系 「取組の柱1」	まちの美化や景観整備、歩きやすい歩道整備に関しての具体的な取組施策についても記載を検討してほしい	➤ 基本施策(ア)の取組（イメージ）にて、景観整備について言及する ➤ また、基本施策(イ)の取組（イメージ）にて、歩道空間づくりに言及する	p.36	名嘉元委員
7	施策体系 「取組の柱1」	MICEの推進にあたり、受入体制だけでなく誘致推進する体制の整備も重要と考えている。現在は沖縄コンベンションビューローが県全体の誘致を担っているが、那覇市独自での誘致体制も検討が必要と思われる。那覇市として、MICE誘致をどのように進めていくのか方針を定めたうえで計画に明記する必要があるのではないか	➤ 別で策定を進めている「那覇MICE振興戦略」と整合を図りながら記載する ➤ 基本施策(ウ)の説明にて、都市型MICE戦略（仮称）を踏まえながら受入体制構築し、MICE主催者等への支援を実施することを記載する	p.36	徳田委員

審議会（11/28）で指摘された事項に対して、以下の対応方針で進めております

指摘事項：将来像・施策案に関する事項

#	カテゴリ	意見	検討方針（案）	骨子案の 関連箇所	質問者
8	施策体系 「取組の柱1」	防犯や防災など、安心安全な観光の強化に向けた取組についても記載してほしい	➤ 基本施策(工)にて、安全・安心な受入体制について言及する ➤ 基本施策(工)の取組（イメージ）にて、感染症や災害等への対応について言及する	p.36	親川委員 石坂委員
9	施策体系 「取組の柱1」・ 目標値	ユニバーサルツーリズムやマイクロツーリズムによる需要喚起を促す取組を追記してほしい。また、KPIの観点でも含めることも考えられる	➤ 基本施策(工)の取組（イメージ）にて、ユニバーサルツーリズムに言及する ➤ マイクロツーリズムに関しては、次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する ➤ 施策レベルのKPIとして設定することが想定されるため、次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する	p.36	親川委員
10	施策体系 「取組の柱2」	なはまぐろや琉球料理保存協会の食文化に関する記載を含めるとよい	➤ 基本施策(ウ)の取組（イメージ）にて、伝統工芸品や食材をはじめとする地場産品や特産品に言及する	p.37	与那委員
11	施策体系 「取組の柱2」	国際通りのブランディングやショッピングに関する記載を含めるとよい	➤ 次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する	-	石坂委員
12	施策体系 「取組の柱3」	外国人の雇用促進だけでなく、地元の人々の雇用環境の整備を含めてほしい	➤ 想定事業例にて、「若者や外国人等も含めた幅広い層への観光産業の魅力周知・雇用促進」と記載を変更する	p.33	親川委員
13	施策体系 「取組の柱3」	観光産業への就職の希望度を高めるための取組として、学校や若者等を対象に観光産業を紹介するような観光業界の啓蒙の実施を含めてほしい	➤ 基本施策(ア)の取組（イメージ）にて、将来的な観光産業の担い手の育成について言及する	p.38	與座委員
14	目標値	観光事業の経営者の観点での指標がKPIとして入れてほしい	➤ 施策レベルのKPIとして設定することが想定されるため、次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する	-	與座委員
15	目標値	KPIは目標を考慮し、目標を達成するために目標値を低く設定しても高く設定しすぎても問題であると思うため、考慮してほしい	➤ 具体的な目標値を検討する際に考慮する想定である	-	石坂委員

審議会（11/28）で受領した追加意見に対して、以下の対応方針で進めております

名嘉元委員からの追加意見

#	カテゴリ	意見	検討方針（案）	骨子案の 関連か所	質問者
1	施策体系 全体	各柱について唐突感を拭えず、柱としてまとめる根拠や説明が乏しく感じる。 示されたPEST及びSWOT分析によりまとめた数行の「テーマ」から「視点」・「キーワード」化、これを受けての取り組みの柱とした場合、前計画の継続評価とした「各取り組みの展開」との結びつきや関連性を感じられず、また、なぜこの柱としたか説明が不足と思われる。	- 国内外の観光動向をPEST分析、那覇市の観光の現状と課題をSWOT分析し、その結果から計画に取り込むべき視点を抽出して柱としている。その際には、第5次那覇市総合計画の「めざすまちの姿」と整合性を図っている - 前計画やコロナ回復戦略の効果検証にて、「継続が望ましい」と評価した施策に関しては、柱ではなく柱の下にぶら下がる施策の検討に結び付ける想定である	-	名嘉元委員
2	施策体系 「取組の 柱1」	ゲートウェイの使用方法是正しいのか疑問である。 国の「アジアゲートウェイ構想」を受け、九州県（沖縄含む）が進めてきた「アジアと日本をつなぐゲートウェイ」等々の表現がなされ、架け橋や成長の取り組みなどの機能面からの施策展開の必要性を謳っていたと認識している。那覇が沖縄のgateway「玄関口」との意とするなら、「那覇」の機能強化は、どこぞ（ここでは沖縄）の振興発展への貢献目的が「那覇市の取り組みの柱」と受け取られるのではないかと懸念している。説明では交通機能、インフラ整備、環境整備、マナーといった多くの国際観光都市の機能強化をこの範疇とするとあったが、「ゲートウェイとしての機能強化」では中身が伝わらないことを懸念している。	- 沖縄県の観光客の多くが那覇空港を利用して訪問していること、日本とアジアをつなぐ貿易拠点として栄えてきた歴史があること等を踏まえると、那覇市が沖縄県のゲートウェイ「玄関口」であることは如実であり、玄関口として観光客を受け入れる体制（交通面、インフラ面、環境面等）を整備することは非常に重要と考えられる - また、那覇市が沖縄県の県庁所在地であり経済や文化の中心を担っていることを踏まえると、沖縄県全体の観光振興をリードしていく役割が那覇市に求められていると考えている。また、観光振興にあたっては、那覇市単独ではなく他の沖縄県内の市町村との連携・周遊促進が重要と考えている	p.32	
3	施策体系 「取組の 柱3」	観光産業の基盤のうち、重要な「人材」確保・育成のみを焦点となっているように感じられる。取り組みの柱とする「産業の基盤強化」との表現は多くの施策展開を期待させる。そもそも根拠とするPEST・SWOTや前計画での施策展開で評価をした「観光産業の基盤強化」との関連性について不明である。	- 想定事例はあくまで事例として出しているが、それ以外にも、様々な具体的施策を実施する想定であり、それらを含めて柱として - 観光産業の基盤強化にあたり、様々な課題がある中で特に喫茶の課題である人手不足を挙げていたが、SWOT分析やPEST分析等を踏まえて他の重点課題も併せて記載する	p.33	
4	施策体系 「取組の 柱4」	「推進体制の強化」自体が取り組みの「柱」となり得るのか疑問である。前記したが「柱」とするからには様々な施策展開が期待される。ステークホルダー体の連携や想定事業が示されているが、他の取組の柱との質や量のバランスを考慮してほしい。	- 那覇市としては、観光協会等の関連団体や観光関連事業者、市民と密に連携を取り、一体となって取組を推進していくために、体制を強化していきたいと考えている - 観光のステークホルダーの意向をきちんとくみ取ったうえで共通のビジョン・認識を持って、みんなで役割分担して観光振興していくことが非常に重要であると考えている	p.32	

審議会（11/28）で受領した追加意見に対して、以下の対応方針で進めております

与那委員からの追加意見

#	カテゴリ	意見	検討方針（案）	骨子案の 関連か所	質問者
1	計画期間	滞在期間の延長、消費額向上を視野に入れ計画の効果を確認するためには、2年周期がよいのではないかと	➢ 計画の評価・見直しの体制等を考慮した結果、10年計画、5年目中間見直しとして計画期間を定める方向性で検討している ➢ また、毎年度進捗管理・評価を行い、適切にPDCAサイクルを回していく想定である	P.6	与那元委員
2	将来像	那覇市は沖縄県の主要都市として、伝統芸能文化や食文化の保全・発信、まちなみの整備、衛生や治安の強化、インクルーシブなインフラ整備、ライドシェア等を活用した交通インフラの整備、インバウンドの需要強化等に取り組む必要があり、それを将来像に入れ込めるとよい	➢ 「沖縄県の主要都市として観光を振興していく」という考えは、「美ら島の国際観光交流都市」で表している ➢ その他の具体的な取組については、次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する	P.31	
3	施策体系「取組の柱2」	那覇の食文化として、なはまぐろの認知度を向上させ浸透させていくためには、商品開発、イベント、PRに戦略的に取り組む必要がある	➢ 基本施策(ウ)の取組（イメージ）にて、伝統工芸品や食材（なはまぐろ等）等の発掘および磨き上げについて言及する	p.37	
4	目標値	消費額を向上させるためには、航空、宿泊、食事、お土産、イベント、交通インフラ、施設利用、のうち赤字の部分を底上げすることが重要と考えられる	➢ 施策レベルのKPIとして設定することが想定されるため、次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する	-	
5	その他	他自治体の成功例を踏まえ、スポーツ振興が重要と思われる。格闘技・武道・伝統相撲の振興など、プロ・アマチュア双方の大会誘致等が考えられる	➢ 次年度以降に具体的な施策を検討する際に、いただいたご意見を踏まえて考慮する	-	